

1. 科目名 (単位数)	健康・医療心理学 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3337						
2. 授業担当教員	岩月 敦	5. 開講学期	秋期						
4. 授業形態	講義、演習								
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>行動変容を大きなテーマに、より健康な生活を送ることができるよう心理学的観点から学ぶことを目的とする。そして、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子(risk factor)を、bio-psycho-socioの3つの観点から発見し、それを防除することを目指し、保健医療の現場で役立つ基礎を学ぶ。</p> <p>また、災害などに遭遇したときの人間の心理と行動を理解し、緊急事態や災害を体験した人々に見られる心理的反応と行動の特徴を知ると同時に、これらに基づき災害への備えや対応を含む方略を考える。</p>								
8. 学習目標	<p>新しい学問としての、健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能か自分の考えを述べるができるようになる。</p>								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。</p> <p>2. 事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行う。</p> <p>3. 指示された課題、レポート提出は必ず行う。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 岸太一・藤野秀美編著『健康・医療心理学—保健と健康の心理学 標準テキスト⑥』ナカニシヤ出版、2017。</p> <p>【参考書・教材】 必要に応じて、随時提示する。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 健康・医療心理学の本質を理解し、人間の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、どのような支援が可能かについて、自分の考えを述べ、実践することが出来るようになったか。</p> <p>○評定の方法 授業への積極的参加、日常の受講態度、課題レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)	総合点の30%	2 課題レポート	総合点の30%	3 期末レポート	総合点の40%
1 授業への参加態度(授業態度、積極的参加)	総合点の30%								
2 課題レポート	総合点の30%								
3 期末レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>心理職という形でなくても、健康・医療心理学の学びはヒトとして生きる上で有用なものとなるでしょう。そのためには、知的な意欲を持って（ほんのわずかでも授業のエッセンスを意図的に使い）授業の内外を過ごす（たとえば、報道を通じて、また自身や他者の健康や医療との関わりを通じて等あれこれ考える）ことがより有効となります。自身の生きている日常で、周囲や社会の出来事などについて興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になると、有意義な知が蓄積、構築されることにもなります。また、分野も超えて知的好奇心、探求心をますます増加させ、自身の知の発展および、こうした喜びを味わうという喜びの多い好循環の人生を生涯にわたって過ごすことが可能となります。</p> <p>新たな情報・知識の大量獲得よりも、以下の学びのプロセスをたどることを第一義とする姿勢を求めます。</p> <p>1) まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理する。 (きれいにまとめられるとは限りません)</p> <p>2) 自身の無自覚な思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。</p> <p>3) 必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。</p> <p>これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。</p> <p>ア) 自分の考え(意見)を言語化し、伝える。</p> <p>イ) 心を開いて、頭を使って、他者(教員・他の学生)の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。 (自分の問題としても関与する)</p> <p>ウ) 他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、頭の中では常に参加する。頭と心を使う。</p> <p>エ) 必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。</p>								
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション — 受講契約と導入	事前学習	健康・医療心理学の領域で関心のあることと、授業への期待等を言語化、記述する。						
		事後学習	健康・医療心理学の学びがどう役に立つのか自分なりのイメージを言語化し、記述する。						
第2回	保健医療の健康心理学1 — 健康指標・保健統計 / 社会保障と健康心理学	事前学習	健康をどうとらえるか、また個々人の健康と社会について考え、言語化し、記述する。						
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての自身の考えがどう変わったのか言語化、記述する。						
第3回	保健医療の健康心理学2 — 健康政策、地域保健と健康心理学	事前学習	健康政策、地域保健について、自身との関係を想起した上で、考え方を言語化、記述する。						
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての自身の考えがどう変わったのか言語化、記述する。						

第4回	健康心理学と公衆衛生1 — 受療行動	事前学習	受療行動について実体験をふり返った上で、自分なりの考えを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、受療行動に関する自身の考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第5回	健康心理学と公衆衛生2 — 喪失・障害の受容と災害時に必要な心理支援	事前学習	喪失体験について、具体的に考え、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、喪失・障害受容に関する考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第6回	健康心理学と公衆衛生3 — 感染症予防および口腔衛生	事前学習	感染症予防、公衆衛生について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第7回	医療の健康心理学的側面1 — 医療従事者—患者関係	事前学習	医療従事者と患者の関係性の特徴について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第8回	医療の健康心理学的側面2 — 医療安全・チーム医療	事前学習	医療安全、チーム医療について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第9回	保健医療における健康心理学的の展開1 — 性行動	事前学習	性の健康、性行動について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第10回	保健医療における健康心理学的の展開2 — アレルギー疾患	事前学習	アレルギー疾患について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第11回	保健医療における健康心理学的の展開3 — 嗜癮行動	事前学習	嗜癮行動について具体的なものを考えた上で、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第12回	保健医療における健康心理学的の展開4 — 自死の予防	事前学習	自殺と自殺予防について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第13回	保健医療における健康心理学的の展開5 — 高齢者の支援	事前学習	高齢者と高齢者支援について、自分なりの考えを言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第14回	保健医療における健康心理学的の展開6 — ストレスと健康・医療心理学のこれから	事前学習	健康と疾患、またそれに対して心理職がすべきことを、自分なりに言語化し、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当部分についての考えがどう変わったのか言語化、記述する。
第15回	まとめ	事前学習	これまでのノートすべてをふり返り、自身の変化などを踏まえて学びや感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、今後に向けた自身の課題意識について言語化し、記述する。
期末試験			